

## 参加した学会員からの感想 —大会準備委員会のメーリングリストから—

谷田部信郎<sup>1)</sup>・玉生 志郎<sup>2)</sup>・青木 正博<sup>1)</sup>・利光 誠<sup>3)</sup>

今回の子どもと自然学会つくば大会を開催するにあたり、現地準備委員会が組織され、共催となった地質標本館からも数名が参加しました。そして、準備段階から運営をスムーズに進めるために子どもと自然学会の準備委員会のメーリングリストに登録され、このメーリングリスト上で、8月13日以降、36通ものメールにより連絡がとられました(もちろん、メーリングリスト外でのメールのやり取りも多数あります)。大会終了後は、事後整理のメールがやり取りされた他、大会の感想などが多数寄せられました。その中から一部抜粋して、以下に掲載します。



29, 30日当日, そしてこの大会を成功させるための1年以上にわたる準備の活動に取り組んでいただきました皆様本当にお世話になりました。ありがとうございました。

本当にいい研究大会になったと思います。また、感想用紙は私が預かってきてしまいましたが、そこには今回の大会に参加できてたくさんのことが学べたという声がびっしりと書き込まれていました。中には高校生の声も寄せられており、それらが皆前向きの受け止め方をしてくれているのを見て、あらためてここまでの皆様方の取り組みに頭が下がる思いをしています。

とりあえずのお礼のメールです。

[千葉県 吉岡秀樹]



たいへんお疲れさまでした。昨日は、若い力もみなぎって、素晴らしいものでしたね。ありがとうございました。

1日目は、息子と地質標本館への参加をしました。初めて石を割ったり、レプリカを作ったり。その晩は、遅く帰ったのにもかかわらず、父親やお姉ちゃんたちに誇らしげに報告していました。自分で割った石のかけらは、きっと彼の宝ものになるでしょう。特に、彼は標本室が気に入ったらしく、「瑪瑙」がお気に入りのようでした(洗い趣味?)。昨日、家に帰ってみると、早速レプリカの色づけをやったらしく(彼の部屋はたいへんなことに)彼の自慢の作品を見せてもらいました。

2日目は、盛りだくさんの発表で、すべてを聞くことはできませんでしたが、地道な深い取り組みにひたすら感心するばかり。おかげさまで、たくさんの勇氣とエネルギーをいただきました。

及川さんの発表の中で印象的だった言葉は、「智慧を失ってきた歴史」・まさにそうですね。人が自然とともに生きるために得てきた智慧を、取り戻したいですね。

[埼玉県 関口いづみ]



つくば大会いろいろ有難うございました。お手伝いができなくてすみませんでした。

すばらしい大会でした。青木館長さんをはじめ、標本館の方たち、ありがとうございました。

特に一日目の化石拾いはすごかったです。あんなにたくさんの化石が見られ、それに自由に掘れるなんて驚きでした。子どもたちにすばらしい体験をさせることができますね。

また海岸での砂鉄拾いも良かったです。砂場での砂鉄拾いしかやったことがないので、砂浜を歩いていても、ただ黒いなと思うだけで、あんなに砂鉄が

1) 産総研 地質標本館  
2) 産総研 地圏資源環境研究部門  
3) 産総研 地質情報研究部門

キーワード: 子どもと自然学会, つくば大会, 準備委員会, メーリングリスト, 感想, 地質標本館

あることは気にもとめないで歩いていってしまうものです。また砂の層も見せていただき、新しい発見ばかりでした。

80円(保険代)であれだけの体験をさせていただき、専門家のスタッフの方たちにただただ感謝。ありがとうございました。化石標本館、じっくり見られなかったのが残念でした。また一度行ってみたいと思います。

2日目の発表会、たくさんの発表で少ししか聞かれなかったのも残念でした。

すばらしい取り組みをみんなされていますね。これも驚きました。

里山の大事さを一層痛感しました。参考になることが多々ありました。専門家の方たちとの連携がなにより大切ですね。

こんな人たちに囲まれて育っていけば子どもたちの未来は明るいのかなーとつくづく感じました。岐阜に帰ってから少しでも取り入れられそうなことは参考にしていきたいと思います。

夜の懇親会、さらにその後での部屋での話し、すばらしい活躍をして見える方ばかりでどれも楽しくまた参考になることばかりでした。

[岐阜県 市原弘生]



たくさんみなさんにお世話になりました。

発表時間が20分というのは長い、という事前準備会の話でしたが、議論が盛り上がってくると足りない感じでしたね。

巡検、こちらにも良いところがございます。

<http://homepage2.nifty.com/kmiyauti/tamatukuri.htm>

また機会がございましたら、いろいろ学びたいと思います。

[茨城県 宮内主斗]



お陰様で皆さんのご協力頂き、大会を終えてホッとしているところです。大会の時にも申しましたが、この成功の下地は、玉生さんの関わりがとても大きいものでした。また、共催した青木館長を中心とした「地質標本館」の研究者の方々、そして「穴塚の自然と歴史の会」の及川さん、小・中・高の現場の先生方、茨城大の郡司先生、地元の子どもに関するサー

クルの方々、そして「子どもと自然学会」の事務局の方々など、それこそ多くの方々のご協力によって「つくば研究大会」を成功裡に導いたことを心から嬉しく思うし、感謝するしだいです。

[茨城県 志賀伸三郎]



子どもと自然学会ご苦勞様でした。また、茨城の海岸へ砂鉄と化石の採集に行きたいです。

[岐阜県 安江定夫]



つくば大会を支えられた実行委員の方々、ご苦勞様でした。大変学び甲斐のある大会だったと思います。

1日目は「古東京湾の地層と化石」の観察採集に出かけました。詳しい資料と研究者による解説により20万年前の旅? を楽しむことができました。太古の渚で潮干狩りとありましたが、現地に行って初めてイメージができました。砂質の中に埋もれた貝化石を採集するんですね。これも化石? と思いましたが、過去に生存していた痕跡が認められるものが化石ですから、現存の貝に似たものが砂の中に埋もれていてもおかしくはありません。貝はかなり古くても似ていますが、> 確かにここは海の底だったんだ。それを化石は事実で示してくれます。そして生きていた時代の環境も教えてくれます。化石にも感謝です。ねじり鎌を貸していただいたので、砂をきれいに剥ぎ取って地層(トラフ状砂層、ハンモック状砂層)を調べたり、巻貝(トガリクダマキ)や帆立貝(トウキョウホタテ)、ハスノハカシパンウニなどの採集に夢中になりました。とにかく化石が続々出てくるので、たまらなく満足しました。そばにいた小学生も嬉しさいっぱいの表情で掘っていました。いつまでももいたい古代の渚でした。トウキョウホタテがたくさん取れたので「野村さん、ホタテ頂戴」と言われ6枚プレゼントしました。あとは友人に少しずつプレゼントします。

研究者はフィールドの作業になれておられたので準備は万端、何から何までお世話になり本当に有難うございました。

また、化石採集の地近辺にはカラスウリが群生していました。あそこまで実が群がっていたのは初めて見ました。さぞかし夏にはきれいな花が咲いていたこと

でしょう。秋らしい色、味(ヤマノイモのむかご)を楽しませていただきました。

午後からは、大竹海岸で堆積物の観察をしました。京都北部の海岸(網野、久美浜、琴引き浜は鳴り砂で有名)の砂には石英が多く全体的に白っぽく感じられますが、ここの砂は灰色っぽいですね。砂鉄の含有量が多そうでした。スコップで掘って砂鉄の層を観察できました。地層(トラフ状砂層、ハンモック状砂層)を頼りにしながら、現代と20万年前の海岸や大地がイメージできそうです。ペットボトルに1本分の砂をゲットしました。(現在乾燥中)磁石の学習で使わせてもらいます。

懇親会では、各地の方々で交流ができて楽しめました。

2日目はどっさりとした要項に各地からの報告が集められ、多様な報告を、会場を歩き来しながら聞くことができました。子どもたちの中に学ぶ意欲の喪失、学力の剥離現象などの状況があるからこそ、自然とたっぷり対話させ、それぞれの五感で本物の魅力をじっくりと体感させたいと思います。足元の地域の自然を調べ、事実から出発し豊かに感じ記述するという教育本来のあり方を、今こそ授業作りに生かしたいと思います。見せかけのバーチャル空間で満足させずに生きた現実の世界から出発する自然誌〈史〉こそ求められているのではないのでしょうか。その思いを強くしました。昼の休憩時間に「地質標本館」に行きました。京都の桜石もちゃんと展示して有りました。印象に残ったのは、日本列島地質図と太平洋海底地形です。これを見たときプレート説は正しいと納得せざるを得ないと思いました。多くの岩石が系統的に展示されていたので、さすがに感心しました。そばの先端技術館にも足を運び、自分の足の3次元図を作ってもらいました。このように、収穫の多い大会でした。大会を支えられた方々、有難うございました。

[京都府 野村 治]



つくば大会はぼくの心の中にまだ熱いものとして残っています。

あの、20万年前の渚につれていってくださった若い研究者の方々、浜辺で掘って砂の中から出てきた縞々の模様など、感動の連続でした。

分科会では地質標本館の方々がどの分科会にも発表をしてくださり、自分たちの活動をすこしでも広めようとしておられた姿に脱帽というところでした。

今頃は岐阜大学の地域科学研究科で大学院生をしていますが、教育学部に川上紳一さんという研究者(専門は天文らしい)がおられます。「縞々学」というものを提唱された方です。

この人の話も大変面白いのです。講義で話を聞きながら、つくばの体験を思い出しています。

[岐阜県 生源寺孝浩]



つくば大会はおかげさまで、大盛況で終わりました。これも玉生さんの地道な準備のおかげです。ありがとうございました。

[千葉県 石渡正志]



上記の感想メールの中には、同時に開催したNPO 穴塚の自然と歴史の会や茨城県立竹園高校、その他の団体の地道な活動に関する感想も記されています。これらの多くの方々の協力により今回のつくば大会が成功したのだとあらためて認識しています。

なお、今回の特集号を企画するにあたり、本稿への掲載に同意していただいた皆様(各文末にお名前を掲載)に厚くお礼を申し上げます。

YATABE Nobuo, TAMANYU Shiro, AOKI Masahiro and TOSHIMITSU Seiichi (2006) : Impressions and comments on the Tsukuba Meeting 2005 of the Society of the Child and Nature, extracted from the mailing list for its meeting organizers.

<受付:2006年1月6日>